

断固、安倍暴走政権打倒！

戦争法強行採決から2年
9.19 国会前大集会



「安保法制＝戦争法」は、自衛隊を米軍の戦争支援の名の下で、海外派兵することを可能にしました。今まで憲法9条をテコして、辛くも拒否できた自衛隊の海外派兵阻止のタガまでも、安倍政権は外してしまったのです。沖縄辺野古・高江への基地建設もオスプレイ配備もアメリカ言いなりで、一度として拒否の姿勢を示したことがない以上、米軍指揮下にある自衛隊は、自動的に戦争に組み込まれることになります。

安倍政権がいう「日米同盟」って一体何なのでしょう。アメリカ側から言わせれば、日本は、日米安保条約とそれに基づく日米地位協定と密約によって、日本国内のどこにでも米軍基地を置くことを認めているのではないかと思います。そうであるならば、「安保法制＝戦争法」を廃止させる闘いは、根っこにある日米安保条約・日米地位協定こそ廃止させる闘いへと発展させていくべきです。
(福島 清)

共謀罪は廃止できる！9・15大集会

主催：共謀罪廃止のための連絡会

共謀罪は 必ず廃止

9月15日・日比谷野外音楽堂。3000人が結集した

警察国家へ向かう権力が共謀罪をどう使うか。私たちはもう兆候以上のものを目撃している。内部告発者を黙らせ、報道機関を脅しながら懐柔し、抵抗する者を孤立させる手段として使われる。米軍の新基地建設に反対する山城博治・沖縄平和運動センター議長を継続的に監視して、逮捕したような弾圧は、共謀罪の成立によって容易になった。共謀罪は、山城氏のように政府と意見の異なる人間を先制攻撃する武器になるだろう。山城氏の逮捕は他の反対者への脅しでもある。共謀罪が使われなくても、政権に批判的な人々を慎重にさせ、行動や発言を控えさせる効果を発揮する。

スノーデン氏の言葉どおり、このまま進めば「未来への扉は閉じられる」だろう。監視の権力に共謀罪を使わせてはならない。（小笠原みどり「スノーデン証言が暴く共謀罪時代、2017. 8. 24 サンデー毎日」）

*

宮澤・レーン・スパイ冤罪事件が再び引き起こされる事態はすぐそこまできています。かつて好奇心旺盛で、北大工学部卒業後は海軍技術者になろうとしていた宮澤弘幸が特高に検挙された時、周囲はこの愛国青年を救おうとはしませんでした。北大当局も周囲の関係者もみな口をつぐみました。権力は反戦活動家よりも愛国青年を検挙する方が、国民に不安、疑心暗鬼をもたらすことを知っていたのです。

今、関東大震災時に朝鮮人虐殺はなかったといわんばかりの都知事がいます。植村隆さんを捏造記者だと貶めている“ジャーナリスト”が大手を振っています。

秘密保護法・戦争法・共謀罪法は、即刻まとめて廃止させなければなりません。「真相を広める会」は、千代田区労協と協力して、右のリーフレットを作成しました。本会ホームページからダウンロードできます。

http://miyazawa-lane.com/doc/20170904_leaflet.pdf

ご活用ください。

（事務局）



国民弾圧・戦争への凶器

~~秘密保護法 戦争法 共謀罪法~~

即刻廃止せよ！

千代田区労働組合協議会
北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会

「捏造記者」攻撃と対決続く植村裁判

植村裁判・札幌 第8回口頭弁論

2017年9月8日午後3時30分から札幌地裁 803号法廷で開かれました。傍聴を求める支援者や市民が大勢詰めかけほぼ満員となりました。原告弁護団は植村さんを含め16人、櫻井よしこ・新潮社の被告弁護団7人が向かい合いました。

今回は、これまでの裁判で論点がほぼ整理されていることから今後の進め方について意見交換がなされ、裁判長は「次回弁論を平成30年2月16日とし、証人尋問を行う」ことを決めました。

この結果、今回は終日の証人尋問となる予定で、緊迫してくると思います。「捏造記者」という汚名を晴らせるために、引き続き裁判傍聴を継続していくつもりです。（根岸正和）

植村さん、産経新聞に調停の申し立て

櫻井よしこ氏こそ“捏造”

植村さんは9月1日、産経新聞に対して“捏造”記事の訂正記事を出すことを求める調停を東京簡裁に申し立てました。“捏造”記事とは、2014年3月3日付産経1面に掲載の櫻井よしこ氏の「美しき勁き国へ 真実ゆがめる朝日報道」と題したコラムの内容です。櫻井氏は次のように書きました。

「91年8月11日、大阪朝日の社会面一面で、植村隆氏が『女子挺身隊』の名で連行され、日本人相手に売春行為を強いられた『朝鮮人従軍慰安婦』を報じた。

この女性、金学順氏は後に東京地裁に裁判を起こし、訴状で、14歳で継父に40円で売られ、3年後、17歳のとき再び継父に売られたと書いている。植村氏は彼女が人身売買の犠牲者であるという重要な点を報じず、慰安婦とは無関係の「女子挺身隊」と慰安婦が同じであるかのように報じた。それを朝日は訂正もせず、大々的に紙面化、社説でも取り上げた。捏造を朝日は全社挙げて広げたのである。」

ここに「訴状で」とありますが、金さんが東京地裁に提出した訴状には、櫻井氏が「書いている」としている記載が一切ありません。これこそ「捏造」ではないでしょうか。

植村さんは「訴状に書いてあるのか、ないのか、というきわめて客観的な事実確認の問題だ」と指摘して産経新聞に「速やかに確認し『訴状にはそうした情報はありませんでした』という趣旨の訂正をしてほしいだけ」と言っています。

植村さんはさらに、櫻井氏が2016年4月22日に札幌地裁で植村裁判の第1回口頭弁論があった当日の記者会見で「訴状にそれが書かれていなかったことということについては率直に私は改めたい」と話していることを指摘して、産経に訂正を求めているが、いまだに訂正していないと説明しています。

訴状に書かれていないことを書き、櫻井氏自身がそれを認めて改めたいと答えているのに、何故産経新聞は訂正しないのでしょうか。櫻井氏と産経新聞の姿勢が問われています。（「調整申立書」と2017.9.8付週刊金曜日の「事実を『捏造』した櫻井よしこ氏」の記事から）

元朝日新聞記者の植村隆さんが
「週刊文春」の記事をめぐる西岡力氏と文藝春秋社を名義棄損で訴えた訴訟

植村裁判 口頭弁論と集会

慰安婦報道をめぐる名誉回復を求めている
東京訴訟第10回口頭弁論

2017年
10月11日(水)
15:00 ~ 15:30

◆東京地方裁判所 103号法廷
東京丸の内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関」駅A1出口より1分
有楽町線「板橋門」駅5番出口より3分
傍聴は整理券の発行と抽選が予想されます。
14時30分までにお集まり下さい

◆主催：植村東京訴訟支援チーム ◆共催：新聞労連/メディア総合研究所/日本ジャーナリスト会議（JCJ）
◆問い合わせ先：日本ジャーナリスト会議 電話03・3291・6475

報告集会 参加費無料

フェイクニュースにどう向き合うか

楊井人文氏 講演
弁護士・日本報道検証機構代表理事

今年6月、学者らとともに「ファクトチェック・イニシアティブ」を立ち上げた楊井人文（やない・ひとみ）氏が、フェイクニュースに私たちはどう向き合うべきかについて講演します。

韓国トリック大学
客員教授
植村隆氏

◆参議院議員会館講堂
東京都千代田区永田町2-1-1
地下鉄 有楽町線・半蔵門線・南北線
「永田町」駅 1番出口よりすぐ
地下鉄 丸の内線・千代田線
「国会議事堂前」駅 1番出口より徒歩5分

2017年
10月11日(水)
16:00 ~ 17:30

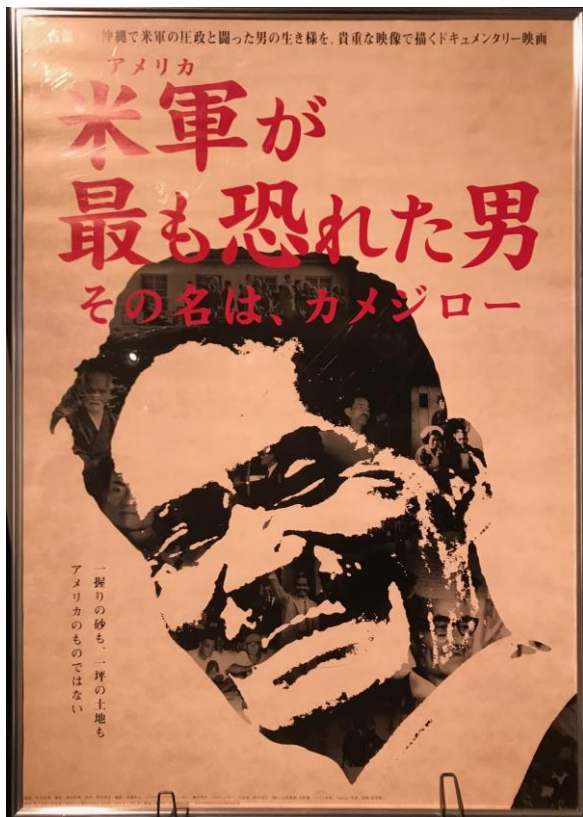
楊井人文氏の講演のほか、弁護団報告、原告・植村隆氏の近況報告があります。

裁判支援やイベント設営のためのカンパを募っております
「植村裁判を支える市民の会」ゆうちょ銀行の振替口座 ゆうちょから 02700 - 3 - 70778
他銀行から 店番908 店名九〇八（キョウゼロハチ）振込種目 普通預金 口座番号4963945

東京訴訟第10回口頭弁論傍聴を

上記のように10月11日午後3時から東京地裁103号法廷です。報告集会も今日的テーマです。

傍聴席をいっぱいにして、植村さんを支援していきたいと思います。（福島 清）



映画『米軍が最も恐れた男—その名は、カメジロー—』を観ました。カメジローと一緒に闘った人々の証言、闘いの現場を記録したモノクロ写真、そしてカメジローの日記などが次々と紹介されていきます。淡々としていますが、その一コマひとコマの何と重いことでしょうか。

1952年、「サンフランシスコ講和条約」で日本から切り離され、1972年に本土復帰するまで続いたアメリカの占領＝直接支配に対する27年間もの沖縄県民の闘いは、今につながっています。

沖縄県民は、アメリカの占領を跳ね返し、自らの手で独立を回復したのです。その沖縄県民を迎え入れた日本はどうでしょうか。「日米同盟」の名のもとに、日本全土をアメリカ軍の占領下に差し出しているのです。そして、辺野古・高江にアメリカ軍向けの永久基地まで作ろうとしています。

翁長知事を先頭にして、米軍基地建設反対を掲げている沖縄県民の側に立たず、アメリカに「基地建設は再検討せよ」のひとことも言わず、本土を蹂躪して勝手に飛び回る欠陥機オスプレイを阻止しようとしめない日本政府って、一体何なのでしょう。

カメジローは「沖縄県民は不屈だ」と言い続けました。沖縄県民はいまも「不屈」です。それを実感することができる映画です。

東京では、渋谷のユーススペースで上映しています。終了日は未定とのこと。毎日大勢のみなさんが観ているからでしょう。定員は144人。私が観た日は平日のためか、高齢者でいっぱいでした。

(福島 清)

<コラム> 冤罪忘れるな！⑩

弄ばれた交換船の救出

1942年9月2日～21日

異国の獄に繋がれて9か月のレーン夫妻に一条の光が射した。9月2日に横浜出帆の交換船でアメリカへ送還するという。交換船のことは、6月26日出帆の第一船に双子の娘が乗ったから、知っている。何はあれ出獄はありがたい。娘たちに会える。不潔な環境から抜けられる。着の身着のまま夜汽車に堪え横浜に着いた。さあどの船？ だが、栈橋に船はなかった。

北大外国人官舎時代のレーン夫妻一家



説明はない。遅れているらしい。似た格好の19人と共に岸壁のホテルに入った。戦時とはいえ、ベッドも食事も獄とは比べものにならない。不安ながらもそんなホテル暮らしに慣れ始めた21日、一転、獄に帰れとの断が出た。何が何んなんだ。会いたい人に会えない不潔で狭い獄に閉じ込め直された。全ては国家と軍の勝手な都合の故だったが、つかの間の天国に浴したあとの地獄は、いっそう辛すぎる日々となった。



「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版（本会編）

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部＝冤罪の真相、第2部＝冤罪事実の条条検証 資料編＝判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付＝重要事項索引（別冊）

申し込みは FAX・メールで本会事務局まで（1面上部題字横に掲載）。送料税込み2300円。後払い。

【事務局から】 富士国際旅行社（東京新宿区）から同社が企画した「北大 宮澤・レーン事件を考える旅」参加者向けに宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の概要説明を要請されましたので、大住広人さんと9月14日、同社会議室に行ってきました。「旅」ですので、事件の概要に加えて、事件に関係した北大や拘置所跡などをパワーポイントにまとめて説明しました。観光旅行企画が主流である旅行社がこの事件に関心を持って企画されたことは、真相を広めるために意義あることです。ご努力に敬意を表したいと思います。（福島 清）